

「米文字芸術」と「文字絵」



「文字絵」に挑戦—小林 明さん(石神)

生きがい作りに「米文字芸術」と

西部地域健康センター、役場、ふれあい館や商店街などに、画用紙に描かれた川柳や百人一首、いろはカルタ、米粒に文字を書き貼り付けた水彩画や文字絵の作品が届けられてきました。

届け主は、石神在住の小林明さん(82歳)です。

小林さんは、西部地域健康センターの開所当時から、毎月定期便で新作が届けられています。

「米文字」を書き始めたのは3〜4年前、お米に文字を書くというテレビを見たとき、「これは、練習すればできる。」と思い始められたそうです。テレビでは、「寿」の一字



82歳とは思われないほどの細かい作業で、取材にお邪魔した際も、5分程で4粒のお米に9文字を物の見事に書き上げてくれました。



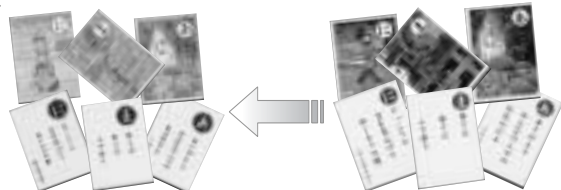
小林さんは若いころから絵心があり、油絵・水彩画と楽しんでおられたようです。

「金魚鉢の金魚」
『金魚鉢の金魚』

だっただけですが、今では、1粒に4文字×2行の8文字もかけると腕前の持ち主です。

以前も、熊野第三小学校の3年生が制作したデジタルで作成したカルタをディスプレイ用に厚紙に大きく描いて欲しいと依頼したところ、快く46枚も手書きで模写していただきました。

約2カ月半近くかかったのですが素晴らしい作品が完成しました。



小林さん作成カルタ

第三小學生作成カルタ

この年齢までいろいろなものへの挑戦欲で描き続けられてきたことが、若さの秘訣ではないでしょうか。

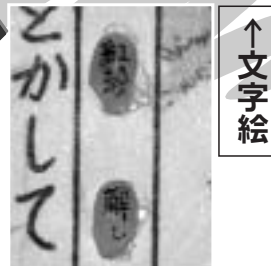
虫眼鏡は使用するものの、米粒に8文字が書けるほどの細かい作業をされるのには、目が達者で、手の震えもないことが要求されます。



八つ切り画用紙に描かれた絵の一部を拡大すると...



さらに拡大すると...



↑文字絵

最近の作品は、米粒文字から輪郭が全て文字で描かれた「文字絵」に変わり、虫眼鏡で見ないと読めないほどの細かい技が、見るものの感心を得ています。

自分の作品を多くの人が見て楽しんでもらえたらと、それを生きがいとして毎月届けられています。

この作品作りが小林さんの元気の源でしょうか。奥様は、小林さんがこの作品作りに熱中してしまうので、少々ご機嫌が良くないとか…。しかし、奥様からお話を聞くと、とても誇らしそうに感じました。

この意欲をいつまでも失わないで、生涯健康で皆を楽しませていただきたいと思います。

(企画課)

くまの歌壇

熊野短歌同好会

婚禮の衣装合わせの吾娘の姿源氏絵巻の華やぎに居る
年ごとに冬の日我が身を包みくれし母の形見の毛糸の茶羽織
わが好みに伸びよと立てし支柱には添わず咲きたりチロリアンランブ
我が腕に眠れる孫のこの重み記憶に留めん次に会うまで
実家の亡姉自ら編みて形見にと賜いし優しさ偲ばるる秋
忘れいし庭の黄菊の一群れは秋よ秋よと語りかけくる
眉月に供えしごとき穂芒の二本がゆれて月をよぎりぬ

- | | | | | | |
|-------|---------|---------|--------|---------|--------|
| 高松 勝子 | 原 森 喜久枝 | 中 本 寿美子 | 田 中 洋子 | 中 井 千代子 | 大 杉 徳子 |
|-------|---------|---------|--------|---------|--------|